

森高校のキャリア教育

北海道森高等学校
校長 根上 和也

1 学校概要

(1) はじめに

本校は、昭和16年に町立実科高等女学校として開設された。その後普通科、家政科、水産科を持つ学科集合型高校となったが、平成11年に学科転換を行い、道内2番目の総合学科高校に生まれ変わった。1学年5学級（道内では5間口という）7系列でスタートしたが、少子化による学級数の削減に伴って、これまで2度にわたり系列等の見直しを行い、平成26年度からは3間口4系列となった。小規模総合学科となったが、多様な学びに対応する選択科目を設定するとともに、地域に根ざした教育活動を意欲的に展開している。

(2) 学校教育目標（目指す生徒像）

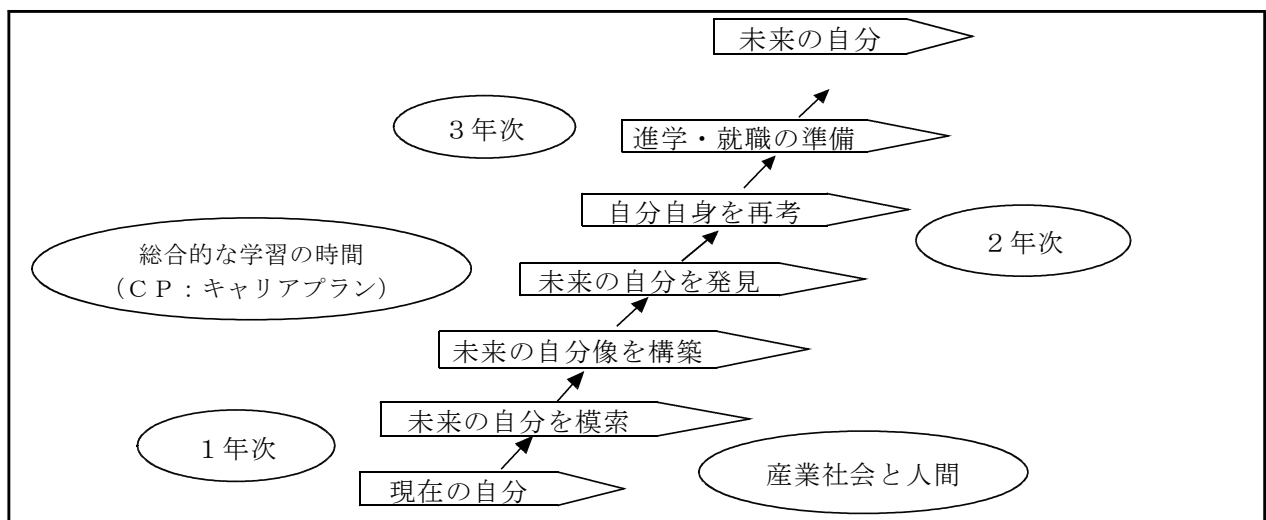
- 自ら学び、考え、行動する人
- 個性豊かで、明るく、思いやりのある人
- 心と体をきたえ、力強く生き抜く人

(3) 系列と特徴等

系 列	特 徴 等
文 理 総 合	大学・短大・看護学校などへの進学を目指す生徒が主に選択する科目を含む系列であり、主に国語や地理歴史、公民、数学、理科、英語などの科目を開設する。
生 活 ・ 環 境	消費者教育に興味・関心を持つ生徒や保育に関する上級学校進学を目指す生徒が選択する科目を含む系列であり、主に公民や家庭科、芸術などの科目を開設する。
健 康 ・ 福 祉	福祉に関する施設への就職や上級学校などへの進学を目指す生徒や、スポーツ活動等を通じて生涯を通じて健やかな身体を育むことについて学習を深める生徒が選択する科目を含む系列であり、主に福祉や家庭科、保健体育の科目を開設する。
情報・ビジネス	公務員や民間企業などへの就職を目指す生徒やコンピュータを活用した芸術分野に興味・関心を持つ生徒が選択する科目を含む系列であり、主に商業や情報、CGなどの科目を開設する。

2 本校のキャリア教育

(1) 全体像



(2) 「産業社会と人間」における取組

ア インターンシップ並びに報告会

1年次において、10月初旬の2日間、全員参加によるインターンシップを行っている。例年、40～50社の協力をいただき、職場体験学習を行う。2月には、全校生徒、受入企業関係者、保護者等の前で、パワーポイントを使用して体験学習の発表を行う。

イ コミュニケーションスキルの育成

キャリア教育の基盤となるコミュニケーションスキルを育成するために1年次の4～5月に外部講師による集団カウンセリングなどを集中的に行っている。



ウ 地域産業学習

事前学習の後、森町のスクールバスを利用して町内の3つの施設を見学。事後学習として、学習内容をまとめ、学校祭での展示、体育館で成果発表会を実施している。【コミュニケーショントレーニング】今年度は、ハピネスひまわり太陽光発電所、株式会社ニチレイフーズ森工場、森町鷺ノ木古墳・埋蔵文化財発掘調査事務所で実施した。

(3) 地域性を素材とした取組

ア 系列横断的取組

前項参照

イ 各系列の特色を生かした取組

(7) 生活福祉系列

介護職員初任者研修の資格取得を取り入れた学習を地元施設の協力を得て実施している。また、地元施設の協力により昨年度は16名の生徒が施設実習を行った。



【「生活支援技術」の授業】

(1) 食文化系列

食文化系列では、社会人との交流を通じて行う外部活力の導入として、民間非常勤講師による調理実習とテーブルマナー体験学習の2つを大きな柱とし実施している。

- ① 民間非常勤講師による体験学習(平成26年度分)
日本料理2回、西洋料理2回、製菓2回、中華料理1回
- ② テーブルマナー体験学習
- ③ 全国高等学校家庭科食物調理技術検定
- ④ 「食品衛生責任者」養成講習会



【民間非常勤講師による調理実習】

(4) 成果と課題

ア 成果

今春、就職を希望する生徒は全員内定を得て卒業することができた。また、社会に出た後の自らの姿を想像するなど、生徒の進路意識の向上が図られ、進路変更等の理由で中途退学する生徒の数が減少している。

イ 課題

3割ほどが短期間で離職しており、働くことについてより一層理解を深める指導が求められる。また、「馴染みがあるから」「親元から通えるから」等の理由で地元への就職を希望する比率が高く、「何がしたいか」「どのように働くか」など自己実現という観点に欠けており、仕事・就職に対する理解が十分深まっているとはいえない。